

室神山

学校便り
令和2年1月17日号
江津市立江津東小学校長 安食 徹

令和2年が明け、3学期が始まりました。皆様にとりまして、今年一年が実り多き年になりますよう、お祈り申し上げます。今年も本校の教育活動に対しまして、引き続きご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



始業式で話したこと

皆さん、明けましておめでとうございます。今日から3学期が始まりました。令和2年、西暦2020年という新しい年も始まっています。今年は東京オリンピックも開催されます。新しい時代の幕開けにふさわしいですね。みんなでワクワクしていきましょう。そして「子年」です。ねずみは、コツコツと努力します。時間をかけて堅い物にも穴を開けてしまいます。みんなで力を合わせるのも得意です。皆さんも努力を忘れず、みんなで力を合わせて頑張っていきましょう。

目玉おやじの話

みんなは自信がありますか。ある人は手を挙げてください。(ほとんど挙手はなし) それでは、自分のことを大切にだと思いますか。(ほぼ全員挙手) それがあれば大丈夫です。今日はそれが育つて自信になるためのポイントを教えます。

自分のことを大切に思う気持ち→自分を尊敬する気持ち(自尊)→**?**→自分
はできるという気持ち(自信)

?が大事です。今からそれを説明します。『人にはもう一人の独りの人が居る』という言葉聞いたことがあります。この言葉の意味は何でしょう。

皆さん、両手を膝の上に置いてください。右手は「はい」左手は「いいえ」です。周りからわからないように、自分だけがわかるように力を入れてください。

- ①いままでに嘘をついたことがある
- ②今までに意地悪をしたことがある
- ③今までに、自分が悪かったのに謝らなかったことがある
- ④自分の失敗を人のせいにしたことがある

私はすべて「はい」です。誰にも見られていなくて誰にもばれていなくても、実は一人だけはじっと観ていて、すべてを知っている人が『自分』の中に居るのです。それがこの言葉の意味です。今聞いたことだって、周りの人は知らないかもしれませんが、「はい」「いいえ」のどちらを選んだか、自分はしっかりと知っているでしょう。また、本気で今の質問に答えていなかったとしたら、それも知っているでしょう。

「する自分」を観ている「観る自分」がいます。何でもいいけど、目玉おやじでもイメージしましょうか。

この自分の中にいる目玉おやじの特徴は、

- ①すごい力持ち パワフル
- ②公平公正 嘘がつけない(独り、誰の影響も受けない)
- ③すごい智慧がある 本当の幸せを知っている 愛に満ちている
あなたのことが大好きでとても愛している 強力な応援団
- ④良心ともいう 神様みたい



人間の中には、この目玉おやじみたいな存在がいるのです。他の動物にはいなくて、人間だけにいるのだと思います。だから人は反省も後悔もできるのです。人間であるための、人間性を備えるための、必要不可欠な存在です。だから、『人にはもう一人の独りの人が要る』と書いてもいいと思います。

そして目玉おやじのものすごい力が発揮されるのは、「いざという時」です。例えば、この打席でヒットを打てば甲子園に行ける。この演奏をノーミスで終えれば、全国コンクールに行ける。というような大事なとき、それまで、じっと黙っ

て観ていた目玉おやじが動き出します。

不誠実で怠け者の人の目玉おやじは、そのときこう言います。

「お前はいつも悪いことは人のせい。嘘については、自分の都合のいいように生きてきた。大した努力もせず、格好だけつけて。私はお前みたいな者は尊敬できない。失敗しろ！それがおまえのためだ！」

誠実な人には、その逆が起こるのです。

みんなはたぶんまだ、小さな「いざという時」の経験しかないと思います。それは守られているから…。保護者や沢山の大人から守られながら、いろんな失敗をする権利があるからなのです。でもこれからは、どんどん自立していきます。「いざという時」のレベルもアップしていきます。人生を大きく左右するような「いざという時」がいずれやってきます。それまでに自信をつけていきましょう。

さて、ポイントの[?]は、目玉おやじから応援された経験です。それで得られたよい結果、たとえ結果が良くなくても、悔いのない感じ、力を出し切った爽快感を味わえたなどの経験です。それが積み重なって「自信」になるのです。

誠実な人の目玉おやじは、いざという時に次のように言います。

「お前は今まで嘘をつかずに、人に責任をなすりつけず、優しい気持ちをもって正々堂々と生きてきた。友だちの気持ちを考えて、自分のわがままは押さえてきた。格好をつけることよりも実力をつけたいと願って、一生懸命努力してきた。私はあなたを尊敬できる。応援する。あなたならできる。がんばれ！」

みんなは若いのです。これからいくらでも、目玉おやじに応援される人生を選ぶことができます。そのポイントを今から言います。この質問を忘れず、迷ったとき自分に尋ねることです。

『あなたは、自分を尊敬できますか？』

そのとき、答えが「いいえ」でも、構わないのです。「はい」と答えることはそう簡単なことではありません。ただこの質問を忘れないことがポイントなのです。目玉おやじがいることを忘れないということが大事なのです。

忘れないことが、自尊から自信への道です。忘れると結局、人と比べて一喜一憂したり、自分より力が劣るように見える人を見下したり、自分より力のある人に対しては卑屈になってへつらったりするようになります。目玉おやじからは尊敬されないでしょう。本当の自信への道は歩めません。

いつか目玉おやじにめちゃくちゃ応援されるような生き方ができるようになるといいですね。私も一生頑張っていきたいと思います。

さて、今ここにいるメンバーと一緒にいられるのも、あと3ヶ月です。特別な3ヶ月です。6年生を中心にみんなで協力し合いながら、「ありがとう」の心が溢れ、寛容な心で赦し合え、尊敬し合える素晴らしい3学期にしていきたいと思います。

※今までは、高学年に話すことが多かった内容です。今回は全校児童に話してみました。

書き初め練習会



12月12日(木)と13日(金)に、3年生以上が書き初め練習会を行いました。3人の講師の方に来ていただき、丁寧に指導していただきました。子どもたちは集中して、一生懸命に取り組んでい

ました。本当にありがとうございました。

ご指導の下、書き初めに取り組んだ児童の力作は、1月15日(水)から授業公開日の22日(水)まで学年の所定の場所に展示してあります。どうぞご鑑賞ください。

ハッピー・プロジェクト（5年生）

12月13日（金）に、5年生がフットサル体験会を行いました。浜田フットサルクラブが行っているハッピー・プロジェクトという事業で、昨年度から本校でも開催してもらっており、今回が2回目です。子どもたちは、藤井 健太選手（元フットサル日本代表チームキャプテン）やポルセイド浜田の2選手と共に汗を流しました。プロ選手の華麗な技術に感嘆の声を上げたり、ゲームをしたりして、5年生はとても生き生きと、笑顔いっぱいに活動していました。また、この日のために子どもたちは横断幕を作ったり、花束を作ったりし、歓迎の気持ちを込めて出会いました。おかげで大変いい出会いになったと思います。藤井選手らも大変喜ばれ、江津東小の5年生の一生懸命取り組む様子を高く評価してくださいました。来年度は最高学年です。とても頼もしく感じました。



芸術鑑賞会

12月17日（火）に芸術鑑賞会がありました。今年度は勝部俊一郎先生、野々村牧子先生、勝部奈緒先生の3名の方に来ていただき、素晴らしい音楽会をしていただきました。きれいな演奏と歌声に子どもたちは聞き惚れていました。きっといい思い出になることだろうと思います。音楽への興味・関心も、グッと高まったことと思います。本当にありがとうございました。



全校集会（わかば学級・たんぽぽ学級の発表）



12月23日（月）の昼休みの時間に全校集会をしました。今回はわかば学級・たんぽぽ学級の発表でした。1度目の演奏は5人で、2回目は交流学級の友達と一緒に演奏しました。感想発表でも沢山の手が挙がりました。とてもいい発表でした。

感謝日記（冬休みバージョン）

今年度は、13日間の冬休みを是非、感謝で溢れさせてほしいと願い、冬休みも感謝日記の宿題を出しました。一生懸命に取り組んだ子は、きっと今年の終わりと新年の始まりを、いい気持ち、幸せな気持ちで過ごすことができたのではないかと思います。それはきっと、新年のスタートダッシュへ繋がることと思います。

夏休みの3分の1ぐらいのチャレンジ期間ということもあり、名人は52人、達人は8人（全校児童92人）と過去最高でした。感謝の内容も、驚くほど多様なものになってきました。様々な視点から感謝の種を探す力がついてきたのであろうと嬉しくなりました。どうかこれからも頑張してほしいと思います。今回は、2月の全校朝礼で表彰をしたいと思います。

『習慣は第二の天性である』という言葉があります。『心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる』という言葉もあります。できれば、これからも頑張って、感謝することを習慣にし、第二の天性へと高めていってほしいと思います。3学期も毎日の生活を送る中で、同じことではなく、何か新しい視点で感謝の種を見つける努力をしていってくれると嬉しいなと思っています。

今回は、最後の感謝日記ということで、一言感想を書いてもらいましたので、以

下にいくつか紹介します。(表現のミスを直したり、漢字にしたりしました。○内の数字は学年です。)

- ①有り難うがいっぱいあって良かった。
- ①有り難うを探して、面白かった。
- ①夏休みは一つ書けなかったけど、冬休みは全部書けたので良かったです。
- ①みんなが私のためにいろいろなことをしてくれて、嬉しかったです。私もみんなに有り難うといってもらえるようにしたいです。
- ①有り難うと思うことは、とても大事なことだと思いました。
- ②これからも、有り難うを沢山言いたいです。
- ②毎日お世話になっていることがわかりました。
- ②有り難うと思う言葉を言ってくれたときも、有り難うと思うことをしてくれたときも、有り難うが心の中にいっぱいありました。冬休みも有り難うがいっぱいあったし、感謝日記を書くときも、有り難うが沢山ありました。
- ③感謝の種を見つけられて良かったです。
- ③有り難いことを書いて、こんなに私たちは感謝しているんだなと思いました。
- ④考えてみれば、有り難うという言葉がいっぱいあったので、私は幸せだと思いました。
- ④いろんな人のいいところを見つけられて良かったです。
- ④最後の感謝日記だけど、これからも有り難うと思ったことを見つけようと思いました。
- ④感謝日記が終わっても、沢山の有り難うを探せたらいいなと思いました。
- ⑤いろんな感謝をいっぱい書いて良かった。
- ⑤毎日、沢山の感謝があると言うことが、改めてわかりました。
- ⑤毎日、感謝がいろんな人にできて良かったです。これからも感謝を忘れないようにしたいです。
- ⑤一日に3つ以上も有り難うと思うことがあったので、私もその恩返しができるように、これから感謝の気持ちを持って過ごそうと思いました。
- ⑥よく考えてみると、有り難うと思うことは沢山あるとわかった。
- ⑥毎日、有り難うを見つけることで、人がどれだけ沢山のいいことをしてくれるかというのが、冬休みや夏休みにわかることができたので、とてもいいものだなと思いました。
- ⑥有り難うと思ったことを毎日書いていくうちに、自分も良い気持ちになったので、冬休みが終わっても、有り難うと思ったことを見つけて、その人に感謝を伝えていきたいです。
- ⑥感謝日記に取り組んで、感謝することが大切だということがわかったので、今後も感謝をしていきたいです。

昔「あなたは正しくありたいですか？それとも幸せでありたいですか？」という問いを聞いたことがあります。そのときハッとしました。それまでは『正しいこと＝幸せ』というイメージがあったからです。自分が正しくあり、人から責められることのない状態が幸せに近いものだと考えていました。だから自己正当化に必死になってきたようにも思います。しかし、どうも違うようです。正しくあるのは大切なことですが、『幸せ』はそれとは質が違います。『感謝・尊敬・寛容』という愛のフィルターを通過してたどり着いた平穏な心のような状態なのではないかと想像します。9月号で紹介した右の言葉がそれを表しているように感じます。そんな経験に近いものを体験できるようにと願って出してきた長期休業中の宿題です。子どもたちが『感謝・尊敬・寛容』を心の中心に置き、たくましく、心豊かに成長していってくれることを願っています。

幸せだから
感謝するのではない
感謝できることが
幸せである

お知らせ

実行委員会を中心に集めた赤い羽根共同募金12,715円を、1月に社会福祉協議会に贈りました。気持ちのこもった浄財として社会福祉に役立てられます。